

# 四半期報告書

(第83期第3四半期)

自 平成20年10月1日  
至 平成20年12月31日

株式会社 日本製鋼所

## 表紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

## 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態及び経営成績の分析	4

第3 設備の状況	7
----------	---

## 第4 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

(1)株式の総数等	8
(2)新株予約権等の状況	8
(3)ライツプランの内容	8
(4)発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5)大株主の状況	8
(6)議決権の状況	9

2 株価の推移	9
---------	---

3 役員の状況	9
---------	---

第5 経理の状況	11
----------	----

## 1 四半期連結財務諸表

(1)四半期連結貸借対照表	12
(2)四半期連結損益計算書	14
(3)四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16

2 その他	25
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	26
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月16日
【四半期会計期間】	第83期第3四半期（自平成20年10月1日至平成20年12月31日）
【会社名】	株式会社日本製鋼所
【英訳名】	THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 永田 昌久
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎一丁目11番1号
【電話番号】	03（5745）2001（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 長谷 義一
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目11番1号
【電話番号】	03（5745）2001（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 長谷 義一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第3四半期連結 累計期間	第83期 第3四半期連結 会計期間	第82期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高（百万円）	168,251	58,653	220,851
経常利益（百万円）	27,884	10,440	30,864
四半期（当期）純利益（百万円）	11,860	2,149	17,484
純資産額（百万円）	—	86,609	85,231
総資産額（百万円）	—	289,357	262,453
1株当たり純資産額（円）	—	232.67	228.93
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	31.95	5.79	47.10
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	29.85	32.38
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	12,368	—	42,040
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△20,481	—	△24,765
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△7,332	—	△8,571
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	20,685	36,133
従業員数（人）	—	4,808	4,540

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しない為記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### （1）連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	4,808 (664)
---------	-------------

（注） 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は（ ）内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

2. 臨時従業員数は、パート、アルバイト及び嘱託契約の従業員等を含み、派遣社員を除いています。

### （2）提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	2,025
---------	-------

（注） 従業員数は就業人員数であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

当第3四半期連結会計期間における生産実績・受注状況・販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと次の通りであります。

#### (1) 生産実績

事業の種類別セグメント	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
鉄鋼製品関連事業 (百万円)	26,782
機械製品関連事業 (百万円)	31,327
地域開発関連事業 (百万円)	443
合計 (百万円)	58,553

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

事業の種類別セグメント	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
	受注高	受注残高
鉄鋼製品関連事業 (百万円)	31,877	155,606
機械製品関連事業 (百万円)	17,041	97,794
地域開発関連事業 (百万円)	11	376
合計(百万円)	48,930	253,777

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

事業の種類別セグメント	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
鉄鋼製品関連事業 (百万円)	26,782
機械製品関連事業 (百万円)	31,428
地域開発関連事業 (百万円)	443
合計 (百万円)	58,653

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間における企業環境は、米国に端を発した金融危機が実体経済に波及し世界的な経済環境の先行き不安から、ユーロや新興国通貨の下落・円高及び株安が進行し、設備投資意欲の減退、個人消費の低迷等により世界的な規模での景気後退が進行いたしました。

このような環境の下、当社グループは、改定中期経営計画（J2008改）に基づき、売上の拡大、原価低減等を推進し、更なる収益の向上と財務体質の強化に取り組んでまいりましたが、昨秋以降は事業環境の激変に対応するため一層の原価の削減・固定費の圧縮など損益分岐点の引き下げ対策を推し進めております。

当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高は586億53百万円、営業利益は109億75百万円、経常利益は104億40百万円、四半期純利益は投資有価証券の評価損の影響を受けて21億49百万円となりました。

○事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

（鉄鋼製品関連事業）

売上高につきましては、天然ガス田用パイプライン向けクラッド鋼管が減少したものの、発電プラント用部材が増加したほか、石油精製用圧力容器の大型案件が寄与し、267億82百万円となりました。

営業利益につきましては、87億55百万円となりました。

（機械製品関連事業）

売上高につきましては、樹脂製造機械が増加したものの、足元の需要環境の影響を受けて、プラスチック射出成形機及び石油化学プラント向け圧縮機が減少したことに加え、風力発電機器が需要の端境期により減少しましたので、314億28百万円となりました。

営業利益につきましては、37億13百万円となりました。

（地域開発関連事業）

売上高につきましては4億43百万円、営業利益につきましては1億78百万円となりました。

○所在地別セグメントの業績については、全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えているため、記載を省略しております。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期連結会計期間末に比べて113億89百万円減少し、206億85百万円となりました。

これは、主に税金等調整前四半期純利益が64億93百万円あるものの、法人税等や中間配当金の支払い、生産効率向上のための設備投資の増加に加えて投資有価証券の取得等が重なったためであります。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は、32億72百万円となりました。これは、主に法人税等の支払い、増産資金の支出増加があったものの、税金等調整前四半期純利益が64億93百万円あったことに加えて、減価償却費が31億4百万円と投資有価証券の評価損等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、115億30百万円となりました。これは、主に生産効率向上のための固定資産の取得による支出43億52百万円と投資有価証券の取得等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、30億74百万円となりました。これは、主に中間配当金の支払額22億27百万円とリース債務の返済額5億15百万円によるものです。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第127条各号に掲げる事項）は次のとおりであります。

#### A. 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針

当社は、「素材」と「機械」の総合メーカーとしてお客様によって異なる様々な製品の要求仕様に応え、製品をお届けすることが当社の使命と考えており、そのためにお客様始め取引先等の様々なステークホルダーとの密

接な信頼関係を重視し、それを維持・向上させることがもっとも大切なことであると考えております。したがって、当社の財務及び事業活動を支配する者は、当社の企業理念、社会的使命及び企業価値の源泉を十分に理解し、短期的な収益の確保のみならず、中長期的な視野に立って、当社を支える様々な関係者を含んだ当社の本源的な企業価値及び株主共同の利益を継続的に維持・向上させる者でなければならないと考えます。

しかしながら、近時においては、株式に対する不適切な大量買付けにより、会社の企業価値・株主共同の利益が毀損される可能性が生じる状況が見られます。このような動きに対し当社は、当社の財務及び事業活動を支配する者が、当社の企業価値及び株主共同の利益を継続的に維持・向上させる者であるか否かの判断は、最終的には当社株主の総体意思に基づき行われるべきものであると考えております。そこで当社株券等に対する大量買付けが行われた際に、かかる大量買付けに応じるべきか否かを株主の皆様が判断するためあるいは当社取締役会が代替案を提案するために必要な情報や時間を確保すること、又は場合により株主の皆様のために買付者と交渉を行うこと等を可能とすることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑止するための枠組みが必要不可欠であると判断しております。

#### B. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、A. の基本方針に則り、平成19年9月10日開催の取締役会で、買付者等が当社株券等に対する買付け等（当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付け、または公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付けをいいます。）を行う前に経るべき手続きやルールを定めた「当社株券等の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「旧プラン」といいます。）を導入いたしました。

その後、平成20年6月27日開催の第82回定時株主総会で旧プランの更新についてご承認いただきました（以下、更新された買収防衛策を「本プラン」といいます。）。

本プランは、新株予約権の無償割当てを用いた事前警告型の買収防衛策であり、具体的内容は以下のとおりであります。

なお、本プランの詳細内容につきましては、当社ホームページ(<http://www.jsw.co.jp/>)投資家情報コーナーの「適時開示情報」に記載する平成20年5月20日付「当社株券等の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の更新について」をご参照ください。

##### ① 本プランの発動に係る手続の設定

本プランは、当社株券等に対する買付け等が行われる場合に、買付者又は買付提案者（以下、「買付者等」といいます。）に対し、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的として、当社経営陣が事前に当該買付け等に関する情報の提供を求め、当該買付け等についての情報収集、検討等を行う期間を確保した上で、株主の皆様のご意向を仰ぐための手続を定めています。

##### ② 新株予約権の無償割当てと独立委員会の利用

買付者等が本プランにおいて定められた手続に従うことなく買付けを行う等、買付者等による買付け等が当社の企業価値・株主共同の利益を著しく害するおそれがあると認められる場合には、当社は、当該買付者等による権利行使は認められないとの行使条件及び当社が当該買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得する旨の取得条項が付された新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）を、その時点の全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てます。

なお、本新株予約権の無償割当ての実施、不実施又は取得等の判断については、当社経営陣から独立した社外の有識者（実績ある会社経営者、官庁出身者、投資銀行業務に精通する者、弁護士、公認会計士及び学識経験者等）で構成される独立委員会を設置し、その判断を経ることで、当社取締役会の恣意的判断を排するとともに、株主の皆様に適時に情報開示を行うことにより透明性を確保することとしています。

##### ③ 本新株予約権の行使及び当社による本新株予約権の取得

仮に、本プランに従って本新株予約権の無償割当てがなされた場合で、買付者等以外の株主の皆様による本新株予約権の行使により、又は当社による本新株予約権の取得と引換えに、買付者等以外の株主の皆様に対して当社株式が交付された場合には、当該買付者等の有する当社株式の議決権割合は、最大50%まで希釈化される可能性があります。

#### C. 上記B. の取組みについての取締役会の判断及びその判断に係る理由

本プランは、当社株券等に対する買収提案がなされた際に、当社株主の皆様が当該買収提案の可否を判断するに当たって必要な情報や相当な検討期間を確保するために定めたルール及び手続きです。本プランにおいて、新株予約権の無償割当てがなされるのは、買付者等が本プランに定められた手続に従うことなく買付け等を開始した状況下で独立委員会が本新株予約権の無償割当てを勧告する場合等を除き株主総会の決議によることとしており、当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上を重視することを意図して設計されております。また、本プランは当社経営陣から独立した社外の有識者から成る独立委員会の設置や対応措置のための合理的な客観的発動要件の設定など、当社取締役会による恣意的な判断が排除される仕組みが確保されており、当社取締役の地位

の維持を目的とするものではありません。

以上より、本プランはA. の基本方針に沿うものであると判断しております。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は10億52百万円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間以降、平成23年度までの3年間で鉄鋼製品関連事業に関して、新たに総額約300億円(リースを含む)の設備投資を予定しております。そのうち、当第3四半期連結会計期間において確定した主要な設備の新設計画の内容は次のとおりです。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後 の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	室蘭製作所 (北海道 室蘭市)	鉄鋼製品 関連事業	新工場 (鍛錬・熱処 理・機械加工 設備用)	6,090	—	自己資金 及び借入 金	平成21年 1月	平成22年 9月	増産
			鍛錬・熱処理 設備	3,930	—	自己資金 及び借入 金	平成20年 11月	平成22年 4月	増産
			機械加工設備	6,570	—	自己資金 及び借入 金	平成20年 11月	平成23年 11月	増産

(注) 連結子会社の設備投資につきましては、設備の規模、重要性に鑑み記載すべき重要な事項はございません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年2月16日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	371,463,036	371,463,036	東京証券取引所 (市場第1部) 大阪証券取引所 (市場第1部) 名古屋証券取引所 (市場第1部) 福岡証券取引所 札幌証券取引所	単元株式数1,000株
計	371,463,036	371,463,036	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年10月1日～ 平成20年12月31日	—	371,463,036	—	19,694	—	5,421

#### (5)【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、次の法人から大量保有報告書の変更報告書の写しの送付があり、次のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

報告書受領日	氏名又は名称	住所又は事務上の連絡先	所有株式数 (千株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
平成20年12月1日	三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	14,021	3.77
	三菱UFJ証券株式会社	東京都千代田区丸の内2-4-1	2,497	0.67
	三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	2,303	0.62
	計	—	18,821	5.07

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 250,000	—	単元株式数1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 369,984,000	369,984	同上
単元未満株式	普通株式 1,229,036	—	同上
発行済株式総数	371,463,036	—	—
総株主の議決権	—	369,984	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が56,000株含まれております。  
また、「完全議決権株式(その他)」欄の「議決権の数」には同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数56個が含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社日本製鋼所	東京都品川区大崎1-11-1	250,000	—	250,000	0.06
計	—	250,000	—	250,000	0.06

## 2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,985	2,220	2,425	2,120	1,948	1,984	1,325	1,071	1,230
最低(円)	1,690	1,870	2,055	1,900	1,732	1,159	448	720	807

(注) 株価は東京証券取引所の市場第一部における相場であります。

## 3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日以後、当四半期報告書提出日までの役員の変動は、次のとおりであります。

### (1) 退任取締役

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	製品戦略室長、横浜製作所長	岸 修	平成21年1月31日

## (2) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	製品戦略室長、横浜製作所長	取締役	製品戦略室長、横浜製作所長、IT開発センター長	岸 修	平成20年12月1日
代表取締役副社長	社長補佐、全社品質管理改善担当、CTO	代表取締役副社長	社長補佐、製品戦略室管掌、研究開発本部管掌、新製品・新技術担当、CTO	岩館 忠雄	平成21年2月1日
代表取締役副社長	社長補佐、全社伝承技術・技能の管理・拡大担当、環境管理担当、安全保障輸出管理担当	代表取締役副社長	社長補佐、鉄鋼事業部管掌、環境管理担当、安全保障輸出管理担当	野村 英雄	平成21年2月1日
常務取締役	製品戦略室担当、新製品・新技術担当、研究開発本部長	常務取締役	製品戦略室担当、研究開発本部長	吉野 勇一	平成21年2月1日
常務取締役	鉄鋼事業部技術部門全般担当、鉄鋼事業部副事業部長	常務取締役	鉄鋼事業部副事業部長、室蘭製作所長、MR-21推進室長	佐藤 育男	平成21年2月1日
取締役	成形機器システム事業部長	取締役	マグネシウム事業部担当、成形機器システム事業部長	田中 義友	平成21年2月1日
取締役	室蘭製作所長、MR-21推進室長	取締役	室蘭製作所副所長、MR-21推進室副室長	村井 悦夫	平成21年2月1日

## 第5【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第1四半期連結会計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）から、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,833	36,552
受取手形及び売掛金	※5 57,298	52,062
有価証券	1,103	—
商品及び製品	1,655	1,645
仕掛品	71,483	60,305
原材料及び貯蔵品	5,814	4,864
その他	14,406	13,549
貸倒引当金	△311	△315
流動資産合計	171,284	168,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	31,430	29,211
その他（純額）	53,301	32,066
有形固定資産合計	※1 84,732	※1 61,277
無形固定資産	※2 1,298	※2 623
投資その他の資産		
その他	32,259	32,084
貸倒引当金	△217	△196
投資その他の資産合計	32,042	31,888
固定資産合計	118,072	93,789
資産合計	289,357	262,453
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※5 51,342	48,732
短期借入金	※5 7,233	6,218
未払法人税等	3,374	9,975
前受金	51,407	49,018
引当金	1,041	1,618
その他	※5 39,367	20,744
流動負債合計	153,767	136,308
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	8,070	10,239
退職給付引当金	6,184	5,484
その他	24,726	15,188
固定負債合計	48,981	40,913
負債合計	202,748	177,221

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,694	19,694
資本剰余金	5,424	5,422
利益剰余金	65,453	58,492
自己株式	△178	△137
株主資本合計	90,393	83,472
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,452	1,930
繰延ヘッジ損益	△290	△254
為替換算調整勘定	△284	△160
評価・換算差額等合計	△4,026	1,514
少数株主持分	242	244
純資産合計	86,609	85,231
負債純資産合計	289,357	262,453

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	168,251
売上原価	118,324
売上総利益	49,927
販売費及び一般管理費	※ 21,480
営業利益	28,446
営業外収益	
受取利息	102
受取配当金	559
持分法による投資利益	7
雑収入	665
営業外収益合計	1,336
営業外費用	
支払利息	329
退職給付会計基準変更時差異の処理額	520
為替差損	546
雑損失	502
営業外費用合計	1,898
経常利益	27,884
特別利益	
固定資産売却益	14
特別利益合計	14
特別損失	
たな卸資産評価損	118
固定資産除却損	1,306
減損損失	2
投資有価証券評価損	3,779
ゴルフ会員権評価損	6
その他	0
特別損失合計	5,214
税金等調整前四半期純利益	22,684
法人税、住民税及び事業税	10,386
法人税等調整額	423
法人税等合計	10,810
少数株主利益	13
四半期純利益	11,860

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間  
(自 平成20年10月1日  
至 平成20年12月31日)

売上高	58,653
売上原価	40,460
売上総利益	18,192
販売費及び一般管理費	※ 7,217
営業利益	10,975
営業外収益	
受取利息	29
受取配当金	221
持分法による投資利益	7
雑収入	158
営業外収益合計	417
営業外費用	
支払利息	106
退職給付会計基準変更時差異の処理額	173
為替差損	600
雑損失	72
営業外費用合計	952
経常利益	10,440
特別利益	
固定資産売却益	5
特別利益合計	5
特別損失	
固定資産除却損	168
投資有価証券評価損	3,778
ゴルフ会員権評価損	5
特別損失合計	3,952
税金等調整前四半期純利益	6,493
法人税、住民税及び事業税	3,371
法人税等調整額	959
法人税等合計	4,331
少数株主利益	12
四半期純利益	2,149

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	22,684
減価償却費	8,340
減損損失	2
のれん償却額	67
受取利息及び受取配当金	△662
支払利息	329
持分法による投資損益 (△は益)	△7
固定資産除却損	1,306
有形固定資産売却損益 (△は益)	△13
投資有価証券評価損益 (△は益)	3,779
退職給付会計基準変更時差異の処理額	573
売上債権の増減額 (△は増加)	3,181
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,030
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△12,139
その他	2,678
小計	29,089
利息及び配当金の受取額	662
利息の支払額	△291
法人税等の支払額	△17,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形及び無形固定資産の取得による支出	△9,545
有形及び無形固定資産の売却による収入	21
投資有価証券の取得による支出	△10,411
投資有価証券の売却による収入	2
長期預り保証金の返還による支出	△336
短期貸付金の増減額 (△は増加)	300
長期貸付金の回収による収入	152
子会社株式の取得による支出	△50
関係会社株式の取得による支出	△363
その他	△250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,481

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,014
長期借入金の返済による支出	△1,669
社債の償還による支出	△30
配当金の支払額	△5,011
自己株式の取得による支出	△43
自己株式の売却による収入	3
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,594
その他	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,332
現金及び現金同等物に係る換算差額	△101
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△15,547
現金及び現金同等物の期首残高	36,133
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	99
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 20,685

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
1. 連結の範囲に関する事項 の変更	(1) 連結の範囲の変更 JSW樹脂機械サービス株式会社については重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。 (2) 変更後の連結子会社の数 36社
2. 会計処理基準に関する事項 の変更	(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法に基づく原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益は270百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は389百万円減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。 (2) リース取引に関する会計基準の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、この変更に伴う影響は軽微であります。

	<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)</p>
	<p>(3)「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>なお、この変更に伴う影響は軽微であります。</p>

【簡便な会計処理】

	<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)</p>
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	<p>前連結会計年度末において算定した貸倒実績率を使用して一般債権の貸倒見積高を算定する方法によっております。</p>
2. 棚卸資産の評価方法	<p>棚卸資産の簿価切下げに関しては収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。</p>
3. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	<p>法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。</p> <p>また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)</p>
<p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正を契機として見直しを行い、第1四半期連結会計期間より、機械装置の耐用年数の変更を行っております。</p> <p>なお、この変更に伴う影響額は軽微であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
※1	有形固定資産減価償却累計額 (百万円) 106,040	有形固定資産減価償却累計額 (百万円) 101,462
※2	無形固定資産の内訳 (百万円)	無形固定資産の内訳 (百万円)
	のれん 267	のれん 334
	その他 1,031	その他 288
	合計 1,298	合計 623
3	受取手形裏書譲渡高 (百万円) 120	受取手形裏書譲渡高 (百万円) 72
4	保証債務 (百万円)	保証債務 (百万円)
	室蘭新エネ開発(株) 638	室蘭新エネ開発(株) 669
	医療法人 母恋 2,000	医療法人 母恋 1,895
	従業員他 801	従業員他 943
	合計 3,439	合計 3,508
	(追加情報) 上記保証債務のうち、医療法人 母恋に関しては、平成20年12月31日現在、一時的に実質的な債務超過の状況にあります。なお、同法人は中期経営計画に基づく経営改善を実施しており、翌四半期連結会計期間以降には業務改善により財務状況も好転するものと判断しております。また当社は同債務保証にあたり、同医療法人より不動産担保の提供を受けております。	(追加情報) 上記保証債務のうち、医療法人 母恋に関しては、平成20年3月31日現在、一時的に実質的な債務超過の状況にあります。なお、同法人は中期経営計画に基づく経営改善を実施しており、来期以降には業務改善により財務状況も好転するものと判断しております。また当社は同債務保証にあたり、同医療法人より不動産担保の提供を受けております。
※5	当第3四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が当第3四半期連結会計期間末日の残高に含まれております。 (百万円) 受取手形及び売掛金 697 支払手形及び買掛金 1,311 短期借入金 1 その他(流動負債) 650 受取手形裏書譲渡高 19	

(四半期連結損益計算書関係)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
※	販売費及び一般管理費のうち主なものは次のとおり であります。  (百万円) 荷造・輸送費 3,788 (うち輸送費) 2,553 人件費 6,505

	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
※	販売費及び一般管理費のうち主なものは次のとおり であります。  (百万円) 荷造・輸送費 1,221 (うち輸送費) 859 人件費 2,186

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

		当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在)		
	現金及び預金勘定		19,833百万円
	預入期間が3ヶ月を超える定期預金		△200百万円
	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)		1,051百万円
	現金及び現金同等物		20,685百万円

## (株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

普通株式 371,463,036株

## 2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 256,829株

## 3. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,784	7.5	平成20年 3月31日	平成20年 6月30日	利益剰余金
平成20年11月4日 取締役会	普通株式	2,227	6.0	平成20年 9月30日	平成20年 12月8日	利益剰余金

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

	当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）					
	鉄鋼製品関連事業 (百万円)	機械製品関連事業 (百万円)	地域開発関連事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	26,782	31,428	443	58,653	—	58,653
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	211	63	1	276	(276)	—
計	26,993	31,491	444	58,929	(276)	58,653
営業利益	8,755	3,713	178	12,647	(1,672)	10,975

	当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）					
	鉄鋼製品関連事業 (百万円)	機械製品関連事業 (百万円)	地域開発関連事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	76,476	90,425	1,349	168,251	—	168,251
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,424	253	4	1,682	(1,682)	—
計	77,901	90,679	1,353	169,934	(1,682)	168,251
営業利益	22,829	9,980	568	33,378	(4,932)	28,446

(注) 1. 事業区分は、売上集計区分によっております。

2. 各事業の主要な製品

(1) 鉄鋼製品関連事業

鋳鍛鋼製品……………発電用品、原子力関連用品、鉄鋼用品等

鋼板・鉄構製品……………石油精製・石油化学用品、クラッド鋼板・鋼管等

(2) 機械製品関連事業

樹脂機械製品……………プラスチック射出成形機、中空成形機、合成樹脂製造・加工機械等

その他機械……………ディスプレイ製造関連機器、マグネシウム射出成形機、風力発電機器等

(3) 地域開発関連事業……………不動産賃貸事業等

3. 会計処理方法の変更

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として個別法に基づく原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として個別法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の営業利益が鉄鋼製品関連事業で125百万円、機械製品関連事業で144百万円減少しております。

【所在地別セグメント情報】

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

	当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）			
	東アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	12,803	4,131	16,135	33,070
II 連結売上高（百万円）				58,653
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	21.8	7.0	27.5	56.3

	当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）			
	東アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	34,043	10,639	43,427	88,110
II 連結売上高（百万円）				168,251
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	20.2	6.3	25.8	52.3

（注）1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 東アジア……………中国、韓国、台湾
- (2) 北米……………アメリカ合衆国、カナダ
- (3) その他……………シンガポール、タイ等

3. 海外売上高は、親会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	232.67円	1株当たり純資産額	228.93円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	31.95円	1株当たり四半期純利益金額	5.79円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
四半期純利益金額(百万円)	11,860	2,149
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	11,860	2,149
普通株式の期中平均株式数(株)	371,215,632	371,209,946

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成20年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 2,227百万円

(ロ) 1株当たりの金額 6円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成20年12月8日

(注) 平成20年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月13日

株式会社日本製鋼所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 栗原 安夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋 洋史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 南山 智昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本製鋼所の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的な手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日本製鋼所及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。